発行所：公益財団法人 北野生涯教育振興会
URL：https://www.kitanozaidan.or.jp/

生涯教育だより

2025
秋冬
季刊 No.139

中尊寺（岩手県）

伝承講演会「能」に親しむ …… 2
伝承研修「伝統文化と大地の歴史（山口編）」 …… 4
舞台芸術「バレエ」に親しむ …… 6
KITANO未来チャレンジ〈新規事業〉 …… 8
プロフィール・インタビュー …… 12
元 スタンレー電気株式会社 常務取締役
冨永 伸治さん

いつでも　どこでも　だれでも学べる

公益財団法人 北野生涯教育振興会
KITANO FOUNDATION OF LIFELONG INTEGRATED EDUCATION

伝承講演会
「能」に親しむ

7月12日(土)めぐろパーシモンホール小ホールにて、能楽師 伶以野 陽子氏をお招きし、能の入門講座が開かれました。

「羽衣」天女の舞

財団のあゆみ 139

能は和製ミュージカル

能楽は、650年以上もの間、脈々と親から子へ、子から孫へ、また、師匠から弟子へと一度も絶えることなく継承されている演劇で、現存する世界最古の芸能です。能楽は、「狂言」と「能」で構成されています。狂言はセリフ劇ともいわれ、ユーモアに富んだ喜劇です。能は劇的です。能は人間の内面の真実に焦点をあてた芸能です。例えば悲しみ、憎しみ、苦しみ、過去を懐かしむ、嫉妬や愛情などの心が演じられます。

能は能面をかけることがとても特徴的です。老若男女、神様、亡霊、妖怪などさまざまなキャラクターのための面（おもて）がたくさんあります。能は和製ミュージカルのようなものです。ミュージカルでいう、セリフ芝居、歌にあたる謡、ダンスにあたる舞、コーラス隊にあたる地謡、オーケストラにあたる邦楽楽器の囃子方の構成でなる総合芸術です。ミュージカルと同じでないところは、楽器演奏者である囃子方を舞台上に見ることができます。3人の打楽器演奏者と1人の笛演奏者が舞台上にいます。打楽器演奏者は楽器演奏だけでなく、掛け声という自分の声を出すことで、曲の雰囲気やテンポをつくります。コーラス隊である地謡が、舞台右側に座っています。この8人のコーラス隊は物語の状況を説明したり、登場人物の感情を代わりに謡ったりします。

お囃子

リズムカルな太鼓、笛と掛け声が絶妙なバランスで繰り出され、我々を能の世界へ誘います。

● 笛……能管といい、管の中が絞られており、独特な音色を奏でます。

● 小鼓（こつづみ）……胴は、桜の木、皮は馬の皮でできていて、強く握ると高い音が出ます。また湿度が高い方が良い音が出ます。

● 大鼓（おおつづみ）……小鼓より一回り大きく、材質は同じような構成ですが、馬の皮を火鉢で乾燥させてから演奏します。小鼓と正反対な性質です。

● 太鼓……一曲の最後の方のクライマック

能「羽衣」

講演する伶以野先生

地謡

お囃子

「羽衣」漁夫

スで登場することが多い楽器です。材質は、銅には欅の木を使い、打面には牛の皮と、真ん中に小さな丸い鹿の皮を貼り付け、檜のバチで打って、より遠くまで音を響かせることができます。

今では、鹿や馬が身近なものとは言えませんが、それぞれの材質に、鹿や馬の皮、けやき、桜や檜など身近なものが使われています。

演奏は、指揮者がいないため、掛け声でタイミングを合わせます。次々に繰り出される音は、絶妙です。日頃の鍛錬の賜物であることを感じます。

羽衣の鑑賞

「羽衣」の演目をシテ方、ワキ方、囃子方とフルメンバーで公演いただきました。

出演者

シテ　伶以野 陽子
ワキ　矢野 昌平　ワキヅレ　村瀬 慧
笛　八反田 智子
小鼓　大村 華由
大鼓　亀井 洋佑
太鼓　姥浦 理紗
後見　松山 隆之、鷹尾 雄紀
地謡　山崎 正道、山中 迓晶、川口 晃平
小田切 亮磨、山崎 友正
綿田 美花

ワークショップ

羽衣「乙女はころもを着しつつ」などの6節を全員で謡いました。多くの方が舞台に上がり、摺り足、舞、装束付けや面付けを体験いただき、大盛況でした。

◆ ◆

伶以野さんの講演は、ユーモアを交え「能楽」をとてもわかりやすく解説いただきました。その一方、「謡」が始まると、雰囲気は一変し、ホールに響き渡る力強く、魂をゆさぶる能楽師の声に変わりました。

「羽衣」の演目は、とてもすばらしく、情緒を「謡」で、「舞」は、天女が空を舞っているかの如く見えました。お囃子のリズム、漁夫との掛け合いで舞台に引き込まれました。現在の令和から時を越えて、室町時代の公家か戦国時代の武将の気持ちで観覧しました。

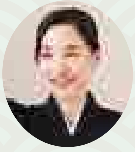
次回の伝承講演会は、「狂言」を予定しています。ぜひ、足をお運びください。

※伶以野陽子氏作成配布資料より一部引用

舞体験

面づけ体験

装束付け体験



伶以野 陽子（れいやー ようこ）
シテ方　観世流
能楽師

五十六世梅若六郎師（現梅若桜雪師）に師事
公益財団法人梅若会所属
東京・香川 緑耀会主宰
YOKO クラブ（伶以野陽子後援会）発足
2024 年 高松市文化奨励賞受賞
2024 年 香川県文化芸術選奨受賞

松陰神社本殿前の鳥居にて

財団のあゆみ 139

伝承研修
「ふるきよきものの伝承」

2025年7月15日㈫～ 7月17日㈭

失われつつある
日本の精神文化を求めて

北野生涯教育振興会創立50周年記念

伝統文化と大地の歴史（山口編）

今回の伝承研修は、北野生涯教育振興会創立50周年を記念して、2泊3日で山口県を訪れました。幕末の歴史を学び、大地の息吹を感じ、大内塗にも挑戦し、実りの多い研修となりました。

松陰神社・萩城下町

幕末激動の時代を切り拓いた熱き志の指導者、吉田松陰。萩藩士の家に生まれ、わずか10歳で兵学師範として教壇に上がるほどの秀才でした。身分に関係なく誰でも学ぶことができる松下村塾を主宰し、わずか1年あまりの間に高杉晋作、伊藤博文ら明治維新の原動力となる人材を育てますが、幕府を批判し29歳で刑死しました。

現在も萩城下町には、幕末の偉人の史跡が多く残ります。中でも松陰神社は明治40年（1907）に創建された吉田松陰を祭神とする神社で、現存する松下村塾の校舎などを見ることができます。

美しい赤い鳥居が連なる元乃隅神社

世界遺産に登録
～明治日本の産業革命遺産～

城跡や武家屋敷の町並みが残る「萩城下町（城跡・旧上級武家地・旧町人地）」、吉田松陰が主宰し多くの志士を輩出した「松下村塾」や、今回は惜しくも訪問できませんでしたが、近代化を目指した「萩反射炉」「恵美須ヶ鼻造船所跡」「大板山たたら製鉄遺跡」などは、平成27年に世界遺産に登録されており、名所として親しまれています。

日本に3カ所ある反射炉の遺構のうちの一つ「萩反射炉」

西洋式木造帆船を建造した「恵美須ヶ鼻造船所」

「親思ふこころにまさる親ごころ
けふの音づれ何ときくらん」
松陰が家族に宛てた遺書の中で詠われた有名な和歌

思いのほかこじんまりとした松下村塾

江戸時代の街並み（写真左）が残る萩城下町。
今回はボランティアガイドの方と一緒に、高杉晋作生誕の地も見学しました（写真右）

元乃隅神社

日本海に向かって123基の赤い鳥居が連なる景色が圧巻の元乃隅神社は、山口県屈指のパワースポットとしても大人気です。

参道出口のひときわ大きな鳥居の上部には賽銭箱があり、その高さはなんと約6m！お賽銭を放り投げて、賽銭箱に入れれば願いが叶うといわれています。

ポスターなどでお馴染みの角島大橋

角島灯台

角島灯台

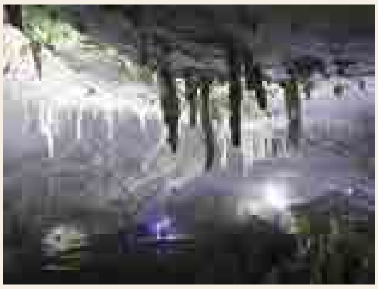
角島の西端に位置し、日本海側初の洋式灯台が立つ公園です。石造りの灯台は明治9年に初点灯し、今も現役で活躍中。展望所からは360度見渡せる景色を楽しめます。また、全国に16しかないのぼれる灯台のひとつで、105段のらせん階段とはしごで上がることもできます。

秋芳洞（あきよしどう）・秋吉台

秋吉台国定公園の地下100mに位置する「秋芳洞」は特別天然記念物に指定されています。洞内の温度は四季を通じて17℃で、気候に左右されず快適に観光を楽しめます。洞内の総延長は10kmを超え、国内最大級。約1kmに及ぶ一般観光コースでは、長い年月をかけて生み出された自然の造形美の数々を目にすることができます。まるで棚田を思わせるような「百枚皿」は写真映え間違いなしの圧巻の見ごたえ。秋芳洞第一の美観である黄金柱は、高さ15m、幅4mの巨大な石灰華柱で、何万年もの年月をかけ築き上げられたものです。

「秋吉台」は、日本三大カルストの一つ。カルスト台地とは、水に溶けやすい石灰岩などが雨水や地下水によって浸食されてできた台地です。見渡す限りの草原に、白い石灰岩が顔を出す様子はまるで羊の群れのよう。

カルスト台地を前にジオガイドから説明を受ける参加者



特別天然記念物に指定されている秋芳洞

世界に一つだけの素敵な作品を作成

約70年ぶりとなる檜皮葺屋根の全面葺き替え工事の覆いが外された瑠璃光寺五重塔

瑠璃光寺五重塔

日本三名塔のひとつに数えられる国宝 瑠璃光寺五重塔。室町時代、長門・周防国（現在の山口県）の守護であった24代大内弘世は、京の都を模した街づくりを進めました。瑠璃光寺五重塔は、大内文化の最高傑作と言われています。

防府天満宮

学問の神様として有名な菅原道真公を祀る神社は全国に約1万2千社ありますが、最初に創建されたのはここ、防府天満宮といわれています。安産祈願や商売繁盛などさまざまな御利益がありますが、やはり合格祈願や学業成就を願って訪れる人が多く、境内にかかるあふれんばかりの絵馬には多くの願いが込められています。

菅原道真公を祀る日本で最初に創建された天神様

錦帯橋

山口県岩国市に堂々と架かる重厚な木造の「錦帯橋」は、日本3名橋のひとつにも数えられる国内屈指の木造橋です。5連のアーチが美しく、1673年に、岩国藩主・吉川広嘉によって建造されました。

木組みの技法が美しい錦帯橋

講演会

舞台芸術「バレエ」に親しむ
―バレエの世界を知り「ドン・キホーテ」を楽しむ―

財団のあゆみ 139

5年ぶりにバレエを取りあげました。全2回のイベントの、第1回はバレエに親しむ講演会、そして第2回は谷桃子バレエ団「ドン・キホーテ」の本公演を鑑賞しました。

4月27日(日)めぐろパーシモンホールでの講演会は、谷桃子バレエ団バレエミストレス 日原永美子先生を講師にお招きしました。颯爽と舞台に登場された日原先生の立ち姿の美しさと歯切れの良い語りに引き込まれつつ、バレエの歴史やテクニック、有名作品などの学びをスタートしました。

バレエはルネサンス期のイタリアで宮廷の余興の一部として、詩の朗読やお芝居と共に「バロ」と呼ばれるダンスとして発生したと言われています。「バロ」が「バレット」と言われるようになり、1533年にイタリアのメディチ家からフランス王室に嫁いだカトリーヌ・ド・メ

まずはバレエの歴史から

基本動作が大切

日原先生の立ち姿が美しい

「結婚してください」
「はい喜んで」
のマイム体験

理想の姫だと勘違いする
ドン・キホーテ

ディシスにより、このバレットがフランスにもたらされました。その後、ルイ14世により王立のバレエ学校が設立され、基本的な技術の確立、そして芸術として花開いていくことになります。

舞台上では、基本ポジションやテクニック、バレエ特有のマイムなどをダンサーの実演を交えて解説していただき、会場の皆様にも一緒にマイムを体験していただきました。

講演会後半は、作品「ドン・キホーテ」の作品解説とともに、主要キャストによるダイジェスト版の披露がありました。華やかな衣装を身にまとったダンサーたちの超人的な跳躍や美しい回転、息の合ったパドドゥなど、本公演への期待がますます高まる講演会となりました。

約1か月後の5月22日(木)～25日(日)に東京文化会館にて開催された「ドン・キホーテ」の本公演は、大人気のバレエ団ということもあり全席完売。ロビーも客席も熱気にあふれていました。ストーリーやマイムなどの事前知識を得たことによって細かな演技も理解でき、作品の魅力を一層深く味わうことができました。

今後も、芸術や文化の世界がグッと身近になるような講演会をご提供してまいります。

難易度の高いリフト

踊り子メルセデスはとても華やか

ちょっぴり可愛いサンチョパンサ

マイムによるストーリー展開

主役の森岡恋さん、森脇崇行さん

超人的なジャンプ

本公演の華やかなフィナーレ

大切なアイテム「扇子」による表現

高校生7名がアメリカへ！
KITANO未来チャレンジ

新規事業

2025年7月23日㈬～8月13日㈬

新規事業として内閣府から認定を受けた海外研修事業「KITANO未来チャレンジ」第1期の高校生7名が、アメリカ　オハイオ州コロンバスでの海外研修に参加しました。当事業は、ホームステイや語学研修等を通じ、異文化への理解、寛容性、適応力を養うとともに、将来に向けて視野を広げることを目指しています。派遣対象者は「ものづくりに興味のある高校生」です。一般的な短期留学とは異なり、現地に進出している日系企業での工場見学が含まれていることが特徴で、スタンレー電気様のご寄附により実現しました。

出発6週間前に実施したオリエンテーションには、緊張した面持ちの研修生が集まり、3週間を共にする仲間とグループ目標などを決め、研修に向けて気持ちを醸成しました。

そして、7月23日、緊張と期待の入り混じった様子で羽田空港を出発した研修生たちは、長時間のフライトを経てコロンバス空港に到着。ウェルカムボードを手に笑顔で出迎えたホストファミリーを前に、ようやく少し安心した表情でそれぞれのステイ先に向かいました。

さて、現地でのメインスケジュールのひとつであった工場見学に協力してくださったのは、ホンダ様、KTH様、ニューマンテック様、スタンレー US様という、いずれも自動車関連の会社です。自動車部品はサイズも機能も様々ですが、各社の広大な工場内で効率的かつ作業者の安全に配慮して製造していく工夫や、ホンダ様ではそれらの部品を組み立てて自動車ができあがっていく様子を見学しました。メカ好きの研修生たちから次々と飛び出す質問に各社の担当者が丁寧に答えてくださり、「ものづくり」の現場を体感する貴重な機会となりました。また、現地に駐在する日本人の方々との会話を通じて「グローバルに活躍する」という自身の将来についても、より鮮明にイメージできたようです。

ホストファミリーとしてご協力くださったスタンレー US社員のご家庭では、週末にはBBQをしたり、遠出をしたり、また現地高校生との交流の機会を作っていただくなど、とても温かく迎え入れてくださいました。「最高の体験だった」という感想が、研修生とホストファミリーの双方から聞け、当財団としても本当に嬉しく思います。

ご協力いただいた全ての方に感謝申しあげます。

めぐろキッズパークに出展

たくさんのお客様にお出でいただきました

映像おもちゃを体験

映像おもちゃを制作

7月13日(日)に目黒区役所で開催された「めぐろキッズパーク」に出展しました。このイベントは目黒区、および目黒区に所在する企業・団体を中心とする目黒区公民連携プラットフォームの活動の一環として行われたものです。この活動に賛同した22の企業・団体が「まちづくり」「産業振興」「子育て・教育」 3つのグループに分かれ、それぞれが活動を企画・推進しています。当財団が所属する「子育て・教育」グループは「子どもたちが体験を通じて、様々なことへの興味を持つことができる」をテーマに各企業・団体が持ち前の経験やノウハウを活かしたブースを出展しました。当財団は、普段から実施しているメディアアーティスト 橋本典久氏による映像おもちゃの体験、制作ワークショップを出展しました。短い時間ではありましたが、ご来場いただいた５００人を超えるお客様には、たくさんの学びのきっかけに触れていただくことができたのではないかと思います。

地域連携のワークショップを開催

絵が動く仕組みを説明

できあがった作品に喜ぶ

8月2日(土)に新渡戸文化学園でメディアアーティスト 橋本典久氏によるワークショップを開催しました。当財団では通常、各自治体の教育委員会からの要請を受けて学校単位で訪問授業という形でアーティストを派遣していますが、今回は新渡戸文化学園を拠点とするＶＩＶＩＳＴＯＰＮＩＴＯＢＥという団体の地域連携活動の一環として行いました。参加者が幅広い年齢層となる中、普段と同じ小学生を対象とした教材を使いましたが、大人も子供も関係なく、みんなでわいわいと楽しい時間を過ごしました。財団は今後もこれまでの枠を超えた地域連携教育の活性化に向けた取り組みを強化してまいります。

デジタル一眼レフカメラ講座（その10）

2025年9月5日㈮～6日㈯

日本大学芸術学部写真学科准教授 穴吹有希先生をお招きし、デジタル一眼レフカメラ講座が開催されました。
群馬県の伊香保、榛名湖にて撮影会を行いました。

カメラ任せから少し工夫を

当日は、台風の接近により、開催が危ぶまれていましたが、無事に実施することができました。雨天時は館内で座学と撮影をしていましたが、台風が過ぎ去った後は晴れ渡り、絶好の撮影日和になりました。

座学では、構図、絞りやシャッタースピードについて学びました。カメラのオート機能に少し工夫をすることで、狙った表現ができることや、ISO感度の調整でなめらかな表情になることなどカメラ機能のコツを教わりました。

撮影会では、思い思いの被写体を見つけ、人がいなくなるまで15分待ち続けるなど、熱意で撮影しました。

撮影後は部屋に戻り、プロジェクターで作品を共有し、先生の講評が行われました。大きな画面で見ると迫力ある写真となります。また、作品にタイトルをつけ、撮影者のメッセージを写真とともに表現してもらいました。

今回も日本大学芸術学部写真学科の3名の学生にお手伝いいただきました。ありがとうございました。

写真展「わたしの見つけた瞬間」vol.10

11月19日㈬～28日㈮
於中目黒GTギャラリー

誌上写真展

※撮影場所
伊香保おもちゃと人形博物館、
伊香保温泉石段街、榛名湖

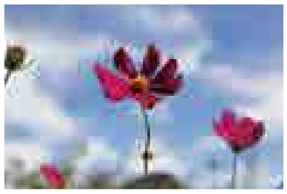
ああ！懐しの鉄人28号

昭和路地

かじかばし

もしもし、なあんだ。お前か。
（100万ドルの微笑み）

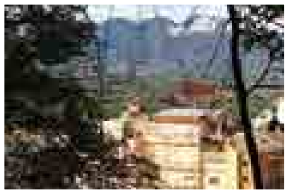
不死鳥


いいよね、私が一番で・・・

初秋の風

めぐみ

穏やかな初秋の湖


木段から見た石段街

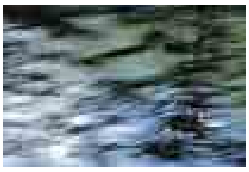
湖面の釣り人

伊香保の神様

穴吹先生からのワンポイントアドバイス

①意図的なブレは時に作品になります。画面全体をブレさすのではなく、静と動を意識してブレていない部分を残すのがポイントです。

②伊香保温泉の路地裏のひとコマ。目立つ被写体ではありませんが、温泉成分で茶色く変化した建物で伊香保温泉の歴史を表現しました。


① 意図的なブレ写真

② 伊香保温泉の路地裏

財団ニュース

ご報告

第47回懸賞論文【わたしと「読書」】入賞者が決定

今年も、恒例の懸賞論文の公募が行われました。今回のテーマは【わたしと「読書」】です。厳正な審査の結果、入賞者は次の方々に決まりました。

賞	作品名	氏名	居住地
1席	語り継ぐ想いを明日へ	新井　まゆ子	青森県
2席	本が母子を繋ぐ	狩野　智子	群馬県
	エレナからの教え	謝　捷	宮城県
	読書会という老後の楽しみ	村上　順三	神奈川県
3席	つながる読書 つなげる読書	小倉　一修	愛知県
	私と父のあいだにあるもの	高畑　菜子	宮崎県
	デジタル時代に「三四郎」を読む	野宮　健司	東京都
	読書の境界	片岡　学	大阪府
	読み聞かせてもらった私	岡　優	神奈川県
佳作	ページの羅針盤	井下　敬翔	滋賀県
	世界一のばかとポエマー	佐藤　将人	神奈川県
	まほうのほん	古澤　愛絆	愛知県
	育休を百冊の本とともに	田中　菜智	千葉県
	本の要塞の門番	宮川　勉	大阪府
	回り道	松井　紅葉	愛知県
	本が差しのべてくれた手	武内　早紀	大阪府
	僕と家族の本棚	宇賀　慎太朗	東京都
	心で見る読書	岸本　珠季	埼玉県
	潜る度深くなる海	矢代　緑	東京都

お知らせ

第53期主要行事のご案内

2025年

10月
- ●理事会
- ●歴史研修「群馬の城めぐり」

11月
- ●評議員会
- ●研究助成金授与式
- ●論文入賞者表彰式
- ●論文集【わたしと「読書」】発行
- ●美術研修（広島の美術館をたずねて）

12月
- ●彫刻奨学生の現在展（目黒区美術館・区民ギャラリー）
- ●懸賞論文公募

2026年

1月
- ●ライフシフト奨学生募集

2月
- ●研究助成金公募
- ●ライフプランセミナー開催
- ●音楽奨学生披露演奏会（東京音楽大学TCMホール）

3月
- ●彫刻奨学生作品設置（山梨県笛吹市）
- ●科目等履修奨学生・放送大学大学院修士全科奨学生成果発表会
- ●ライフシフト奨学生交流会
- ●歴史研修（沖縄の城めぐり）

4月
- ●音楽奨学生奨学金授与式
- ●財団創立50周年記念オペラ『ヤマタノオロチ』公演（めぐろパーシモンホール）

5月
- ●理事会
- ●論文審査会議
- ●伝承研修（伝統文化と大地の歴史【島根・鳥取編】）

6月
- ●「ミンダナオ子ども図書館」大学生奨学金授与式
- ●科目等履修奨学生・放送大学（選科履修生・大学院修士全科）奨学生選考委員会
- ●彫刻奨学生奨学金授与式

7月
- ●研究助成金選考委員会
- ●講演会 伝統文化『狂言』に親しむ

9月
- ●インドネシア（POLINES大学）奨学金授与式
- ●理事会
- ●ベトナム奨学金授与式

※講師等の都合により、スケジュール変更の場合があります。

【訃報】

2025年8月2日享年98にて永眠いたしました。ここに生前のご厚誼に深謝し、謹んでお知らせ申しあげます。

2002年11月に第二代理事長に就任し、長きにわたり財団を支えていただきました。謹んで心よりご冥福をお祈り申しあげます。

前理事長　北野 重子

【人事】

故 北野 重子の後任として、令和7年8月20日開催の理事会において、北野七重が理事長に選任され、同日付で就任いたしました。

理事長　北野 七重

表紙ギャラリー

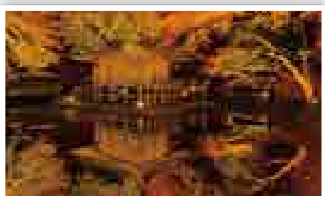
当財団は、『出会いはドラマ、感動する心を大切に』というスローガンのもと、出会いを大切にし、様々な学ぶ機会を提供してきました。人との出会いだけではなく、城や神社仏閣などの歴史的建造物や長い歴史に育まれた美しい原風景との出会いからも学ぶことは多いのではないかと考え、『世界遺産』を財団機関誌でご紹介します。

中尊寺（岩手県）

中尊寺は、岩手県平泉町にある天台宗の名刹で、奥州藤原氏の栄華を今に伝える寺院です。850年に慈覚大師円仁が開山したと伝えられ、12世紀に奥州藤原氏初代清衡が大規模に整備しました。戦乱で命を落とした人々の魂を慰め、平和な理想郷である浄土をこの地に表そうとした清衡の願いが込められています。

境内には多くの堂塔があり、なかでも国宝「金色堂」（写真）は、金箔で荘厳された阿弥陀堂で、藤原三代の遺骸が安置され、国宝に指定されています。また能舞台や経蔵などの文化財も多数残り、歴史的価値が高い寺院です。

その歴史的・文化的価値の高さから、2011年に「平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」の一部として世界遺産に登録されました。中尊寺は、東北の文化と信仰を象徴する貴重な遺産であり、今も多くの参拝者や観光客を魅了しています。



写真提供：masy/PIXTA

生涯教育だより
第139号

2025年11月10日発行
編集人　香澤　利治　　発行人　北野　七重
発行所　公益財団法人　北野生涯教育振興会
〒153-0053
東京都目黒区五本木1丁目12番16号
電話　東京　03（3711）1111

設立のねらい

当財団は、スタンレー電気株式会社の創業者北野隆春の私財提供により、生涯教育の振興をはかる目的で1975年6月23日、文部省（現文部科学省）の認可を得て発足し、2010年12月1日に公益財団法人となりました。当財団は、いつでもどこでもだれでも学べる機会をつくり、学ぼうとする方々に対し、より豊かな生きがいを持てるよう、時代が求める諸事業を展開してまいります。

元 スタンレー電気株式会社 常務取締役

冨永 伸治さん

TOMINAGA SHINJI

目標を立て、学び、動く。成長も喜びも、その先に待っている

2024年から当財団の評議員を務める冨永さん。ご自身の経歴をもとに、生涯教育に対するお考えをお話しいただきました。

── 評議員を務めていただくことになった経緯や、当財団の事業で関心のあるものを教えてください。

スタンレー電気の理事として中国に駐在していたところ、現地で行われた奨学金授与式に出席していました。その縁もあり、評議員にお声がけいただきました。特に関心があるのは「KITANO未来チャレンジ」（詳細は本誌8頁）。日本経済に閉塞感がある中で、全く違う空気感をもった地域を感受性の豊かな年齢のうちに見るのは、貴重な経験だと思います。

── ご経歴をお聞かせください。

親が転勤族だったので、幼少期から環境が変わるのには慣れっこで、むしろそれを楽しく感じていました。そのせいかキャリアにおいても、いろいろな場所で働くことになりました。

特に印象深いのは、1987年、設立間もないStanley Electric U.S.へ出向したこと。自らの希望でしたが、英語は全然できなくて。しかも農業地帯のため、現地の従業員は製造業を知らない若者ばかり。ミスが起きると「あなたの英語が分からなかった」と言われ、悔しい思いをしました。でもある時気づいたんです。「私の英語を理解しなければならない相手は、もっと苦労している」。以後英語力だけでなく、相手を思いやる姿勢を心がけました。少しずつ、言葉や文化を超えた信頼が芽生え、最後には「人間としての本質は同じ」という当たり前だけれど大切なことを、胸に刻むことができました。

2004年のスタンレーいわき製作所での新工場開設も、特別な経験でした。社長として、従業員はもちろん、ご家族の生活も背負う立場。新工場の建設、新設備導入のための親会社からの借入金を計画通りに返済するだけではなく、「従業員の賞与を増やす」を自分なりの目標に定め、お金の出入りにはこれでもかというくらいシビアに向き合いました。新工場は無事軌道に乗り、業績も好調に推移したことから、賞与アップも実現でき、大きなやりがいを感じましたね。

── 余暇の過ごし方を教えてください。

現役時代は付き合いが目的だったゴルフですが、今では「うまくなりたい」という思いが芽生えてすっかり熱中しています。動画配信サイトでコツを学び、週4、5日は練習場。年のせいか思ったようには身体が動きませんが、それも工夫のしがいのあるところ。かつての仕事仲間もゴルフ好きが多く、予定を合わせて一緒にコースを回るのも楽しみです。

歴史小説もマイブーム。学生時代は関心がなかったのですが、最近何気なく本屋で歴史小説を手にとったらハマってしまって。「戦国時代から明治維新にかけては、こんな野望や大志を抱いていた人がいたのか」などと感心しながら、本を読んだり大河ドラマを見直したりしています。

かつての仕事仲間とアメリカでゴルフ

旅行も楽しみます

── 生涯教育に対するお考えをお聞かせください。

大したものでなくていいので、目標を掲げると、能動的に学び続けることができると思います。振り返ると私も、その時々で大なり小なり目標を立てていました。向かうべきゴールが見えていると、その途中に難題が現れても、興味をもって取り組める。たとえ目標を達成できなくても、それも学びの一つになるはずです。

── 読者の皆さんにメッセージをお願いします。

「教育」「学習」という言葉から受験を連想して、あまり良い思い出のない方もいるかもしれません。でも人間って幼いころは誰もが、大人を困らせるくらい「なんで？ どうして？」と何でも知りたがりますよね。本来学ぶことは人間にとって、喜びのはず。苦手だと思っていたことも、童心に戻って向き合ってみるのもいいかもしれません。

さまざまな場所で、目標に向かってチャレンジを続けてきた冨永さん。今後は評議員として、新たな一歩を踏み出す人々を応援してくださるようお願いいたします。